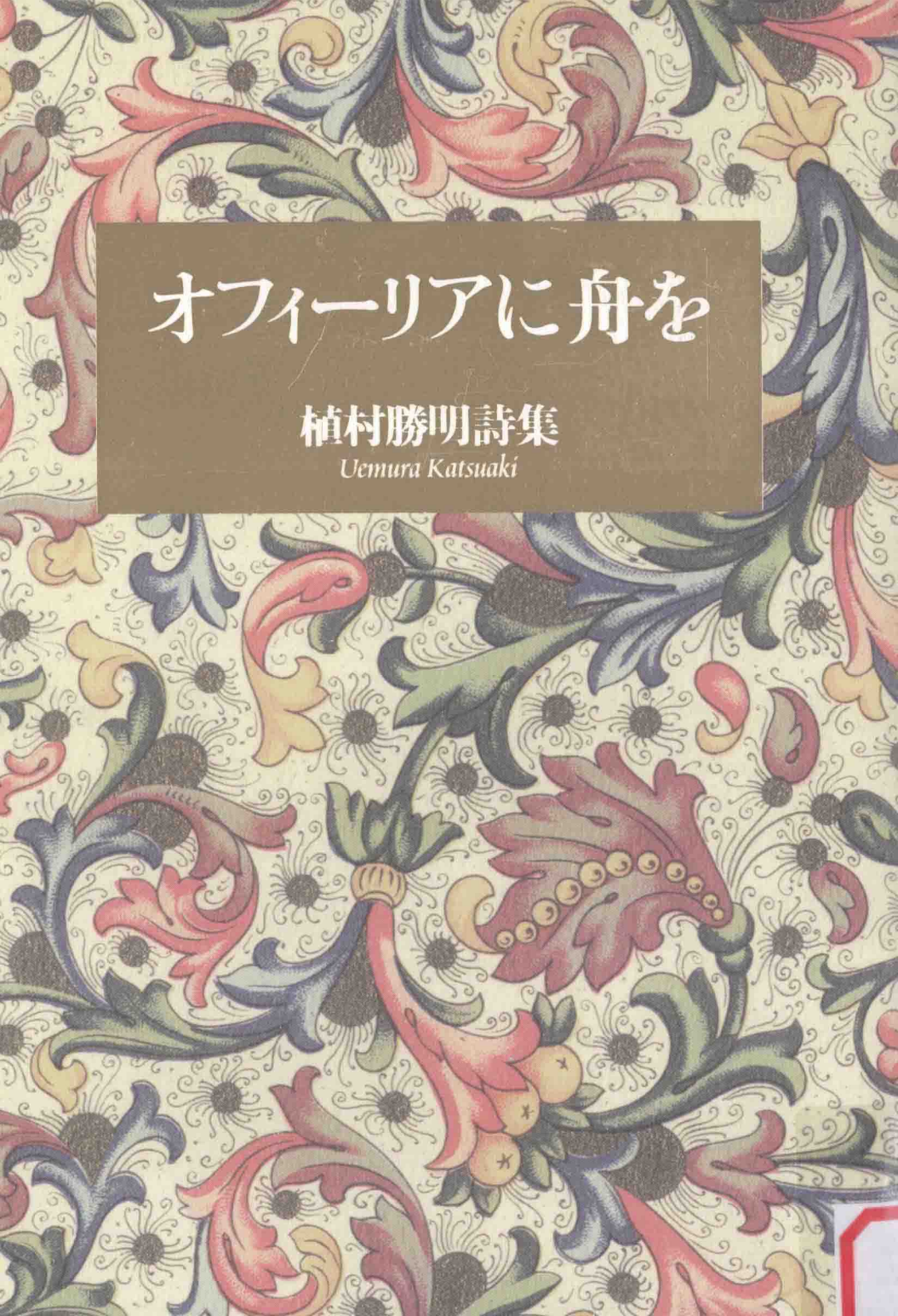




オフィーリアに舟を

植村勝明詩集

Uemura Katsuaki

オフィーリアに舟を

植村勝明詩集

Uemura Katsuaki

土曜美術社出版販売

著者略歴

植村勝明 (うへむら・かつあき)

1934年 熊本県生まれ。

詩集『ゴジュウカラ』(燎原社)

『スケッチブック』(本多企画)

『馬繋ぎの木』(沖積舎)

『石を割る渴者』(詩学社)

『植物誌』(土曜美術社出版販売)

『王国記』(土曜美術社出版販売)

『クリスマスローズ』(砂子屋書房)

『セルペンティーナ／わがメルヘン』(土曜美術社出版販売)

現住所 〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-11-16-2207

詩集
オフィーリアに舟をふね

発行 二〇一四年十月五日

著者 植村勝明

装幀 森本良成

発行者 高木祐子

発行所 土曜美術社出版販売

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町三-10

電話 〇三-五二九-〇七三〇

FAX 〇三-五二九-〇七三二

振替 〇〇一六〇-九-七五六九〇九

印刷・製本 モリモト印刷

ISBN978-4-8120-2149-1 C0092

詩集
オフイーリアに舟を＊ 目次

オフィーリアに舟を	7
雪	8
雪降る庭	10
釧	12
白い部屋の女	14
砂漠の女	16
吾が恋	18
眩しい四月	20
ファド	22
*	
花びらが庭を流れる	30
花の多い荒地	32
戸田の夏	34
ハナシノブ	36

少女のような小舟 38

星を愛した者 40

エピタフ 42

どうせ滅びるものなら 44

眠り姫 46

*

地獄の沙汰 49

いたずら 50

早春賦 52

計算違い 54

いくら情の薄い亭主でも 56

朝食はパンと葡萄と 58

春になったら 60

マツムシソウ 62

春の園 64

安曇野 66

おまえは南の海の 68

丘 70

誤った利用法 74

街並みや光の中 76

悪人なおもて 78

鵲鴿 82

寒冷地仕様 84

グレーの橋 86

悲しみは 88

おまえの席も 90

あとがき 92

詩集
オフイーリアに舟を＊ 目次

オフィーリアに舟を 7

雪 8

雪降る庭 10

釧 12

白い部屋之女 14

砂漠の女 16

吾が恋 18

眩しい四月 20

ファド 22

*

花びらが庭を流れる 30

花の多い荒れ地 32

戸田の夏 34

ハナシノブ 36

少女のような小舟 38

星を愛した者 40

エピタフ 42

どうせ滅びるものなら 44

眠り姫 46

*

地獄の沙汰 49

いたずら 50

早春賦 52

計算違い 54

いくら情の薄い亭主でも 56

朝食はパンと葡萄と 58

春になったら 60

マツムシソウ 62

春の園	64
安曇野	66
おまえは南の海の	68
丘	70
誤った利用法	74
街並みや光の中	76
悪人なおもて	78
鵲鴿	82
寒冷地仕様	84
グレーの橋	86
悲しみは	88
おまえの席も	90
あとがき	92

詩集

オフイーリアに舟を

オフイーリアに舟を

海まで流されていくには オフイーリア
も少し準備が^るいる

舟を描き加えてあげよう

雪

雪原を歩いていた

目を覚ますと今年は何じめての雪

寝室に暖房がないのでこんなパラレルなことが起きる

——あんな曠野に放り出され

生きていくための または死んでいくための

訓練をうけていたのだろうか

それで あの夢はいくらかでもわたしを強くしたのだろうか

姫娑羅のあたり 深々と

マリンスノーといった降り方をしている

雪降る庭

……こんどの家は表からまっすぐに小道をつくろう

手を置いて休めるよう 途中に木を植えよう

寒い季節のことを考えると落葉樹がいい

……出来上がってみると変に曲がったアプローチがつき

玄関の半分を常緑樹が覆い隠しているだろう

そのうえ耳障りな音のする鉄扉をしつらえ

棘のある暮らしを続けているだろう